



いちごで注目の新技術に取組み開始!

いちご栽培で化学成品農薬を使わない新技術が注目されています。春日部農林振興センターでは2つの新技術の取組みを開始し、いちごの生産者に広く知っていただくこと、実演会を開催しました。

新技術①「苗の温湯消毒」

稲の種籾の消毒で普及している温湯消毒技術を、いちごの苗に応用した技術です。いちごの挿し苗用の苗を50℃のお湯に3分間浸すことで、うどんこ病を抑えることができます。稲用の温湯種子処理機(温湯消毒機)は各地域で広く普及しており、既存の装置を利用できるため、大変注目されている新技術です。



▲いちごの栽培講習会で、苗の温湯消毒をしている様子
平成29年7月12日

▲ネットに入れて処理もできます



▲いちごの栽培講習会で、高濃度炭酸ガス処理装置を組み立てている様子
平成29年7月12日

新技術②「高濃度炭酸ガス処理」

いちごの最大の敵といっても過言ではないハタニ類。農薬が効きにくく厄介な害虫です。

ハウスに植える前の苗を、二酸化炭素濃度60%の処理装置(取扱いには注意が必要)に入れて、24時間置くこと、このハタニをほぼ全滅させることができます。

当日は、管内のいちご生産者など約30名が参加し、2つの新技術の実演を見ていただきました。

農業支援部では、今後も栽培の新技術の支援を行っていきます。

【お問合せ】

技術普及担当

☎048-737-6311



移住への取組み〜埼玉県ではじめる農ある暮らし〜

埼玉県の情報を発信

埼玉県は、地域住民活動の支援や都市との地域間交流、定住の促進等を行うため、その一環として「農山村への移住促進フレストップ体制整備事業」を立ち上げました。東京都内に設置した「埼玉アグリライフサポートセンター」では、埼玉県の魅力や移住に関する情報を発信しています。農ある暮らしを求めて移住を希望する人に対し、相談員が意向を整理しながら市町村とのマッチングを行います。

また、市町村や県内民間団体等と連携して、セミナー及びメディアを活用した「埼玉で農ある暮らし」の魅力発信を行い、農山村への移住促進を図っています。

「移住・交流・農ある暮らしセミナー」を開催

平成29年7月1日に、埼玉県、幸手市、宮代町、杉戸町主催による「移住・交流・農ある暮らしセミナー」を、NPO法人ふるさと回帰支援センター(東京交通会館8階)において開催しました。

当日は、主催市町の魅力の紹介、移住者・農ある暮らし実践者3名の体験談、実践者を囲んだ座談会及び個別相談が行われました。魅力の紹介については、自然環境、交通網、子育て環境、農業の状況、町の行事(祭りなど)の話があり、実践者からは「埼玉県は自然が身近にあり、農業に向いているが、田舎過ぎず、買い物などもしやすいところがいい」という言葉が出ました。



▲「移住・交流・農ある暮らしセミナー」講演風景

「移住」の一般的なイメージは、今住んでいるところから遠く離れ、新たに仕事を探し、一から人間関係を作る。そのように今の暮らしを劇的に変えるのはためらう。けれど、新しい暮らしにチャレンジしたい。そんなあなたにおすすめしたい、適度に田園風景の残る埼玉での農ある暮らし。

【お問合せ】

地域支援担当

☎048-737-2134

